

2021年度は、2年目薬剤師2名、派遣薬剤師1名を含め、薬剤師7名・薬局事務2名体制でスタート。7月に育休から薬剤師1名復職（薬剤師派遣終了）。時短・臨時勤務者もあり、実質薬剤師6.0名体制と相変わらずの人員不足のため、若手・ベテランの仕分けなくあらゆる業務に携わらなければならなかった。しかしながらその結果、若手薬剤師も多くの経験を積むことができ、この1年間は非常に苦労したかもしれないが、期待以上の成長ぶりであった。

2021年度も「薬局理念」にある、患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めることができ、働き方改革でも「協働」を推進し、あらためてチームワークの良さを認識・継続できた1年であった。

【薬局理念】

患者さんを第一に考えた、安心・安全で良質な薬物療法の提供に努めます。

【基本方針】

- ・医療チームの一員として他職種と連携をはかり、医薬品の適正使用を推進します。
- ・向上心を持って自己研鑽に励み、より専門性の高い薬剤師を目指します。
- ・教育・研修を推進し、人として、医療人として暖かみのあるスタッフ育成に努めます。

2021年度の主な活動

1. 人材育成とCOVID-19対応

コロナ禍で集合研修ができないなか、薬局内でのスモール学習を再開。働き方改革も謳われている状況下ではあったが、週に1回、業務開始前の15分を利用して持ち回りによる勉強会を1年間通して開催した。先輩達の学びの内容を若手薬剤師は知ることができ、また、提示する資料の作成や説明スキルを磨くこともできた。15分という限られた時間ではあるが、短い時間だからこそ無理なく継続でき、薬局全体のレベルアップに繋がっていると感じた。継続は力なり。次年度も、自己啓発とともにさらなる高みを目指していく。

また、新型コロナワクチン管理・調製、COVID-19治療薬の調製を、平日・休日問わず全ての薬剤師が実施できるよう育成し、看護師の業務負担軽減に寄与できたと考える。

2. 外来対応

コロナ禍の中、必要に応じて車待機場まで出向いての服薬指導、お薬手帳や持参薬処理のために随時手指消毒など、感染対策を徹底しながらの活動であった。高齢者の多い当院では、マスクの上に、アクリル板越しと、非常にコミュニケーションのとりづらい状況ではあったが、患者さんが聞き取れるように、より丁寧に、ゆっくりと、アドヒアランス向上に努め、また、ジェネリック医薬品への切り替えも積極的に行った。一包化調剤や、残薬調整についても、断ること無く業務遂行し、服薬コ

ンプライアンス向上、医療資源の有効活用、および患者さんの負担軽減にも大いに貢献できたものとする。

	2021年度	2020年度	2019年度
一包化調剤（外来）	2,317件	2,189件	2,208件
後発医薬品使用割合	84.2%	83.7%	84.3%

3. 病棟業務

1年目から病棟担当していた2年目薬剤師も、医師、看護師、ほかスタッフとの連携もスムーズになり、積極的に処方変更・修正提案など行いながら、医薬品の適正使用に貢献できていた。土日・祝日の勤務も継続し、365日毎日薬剤師が勤務していることで、タイムリーな持参薬鑑別報告書作成をはじめ、リスク管理にも貢献できたものとする。コロナ禍で病棟活動にも制限があるなか、着実に業務遂行できていた1年であった。

	2021年度	2020年度	2019年度
持参薬鑑別	925件	903件	995件

4. 無菌調製

抗がん剤の無菌調製については減少傾向にあるが、1年を通して入院・外来を問わず、全ての抗がん剤の無菌調製を行うことができた。

無菌調製	2021年度	2020年度	2019年度
抗がん剤	59件	87件	135件
高カロリー輸液	9件	23件	194件

5. 自己啓発

コロナ禍のため集合研修もできるだけ控えたため、医薬品に関する知識習得のための院内研修会も開催できなかったが、薬剤師会や製薬会社主催のWeb研修会に各自積極的に参加し、日々の研鑽とスキルアップに努めた。

6. 医薬品在庫管理および情報提供

後発医薬品への切替えを推進し、「後発医薬品使用割合80%以上」が要件となる「後発医薬品体制加算2」を1年間通じて取得できた。また、高額医薬品の適正管理や期限切れ医薬品の削減、包括病棟におけるコスト管理など、経営面に貢献すべく取り組んだ。医薬品情報データベースにはD I ニュースをはじめ、COVID-19関連情報、看護師向け情報、安全性情報、疾患の基礎知識などを掲載し、情報の共有化・一元化に努めるとともに、いつでも、どこからでも確認できるよう改訂・更新を随時行った。

今後の課題と展望

次年度は産休・育休者が2名と、さらに厳しい体制が待ち受けているが、COVID-19に対する薬物治療薬の情報収集および情報提供をはじめ、医薬品のさらなる適正使用に貢献できるよう努めていきたい。「協働」「業務効率化」「医療DX」「ポリファーマシー対策」を念頭に、いつでもサポートできる体制づくりを推進し、チームワークで「安心・安全で良質な薬物療法の提供」を継続していきたい。